

医師修学資金貸与学生との面談について

1 概要

(1) 実施時期

平成26年7月8日（火）から平成26年9月16日（火）

(2) 面談対象者

医師修学資金貸与学生42名（うち、地域枠 25名、一般枠 17名）

※1名体調不良により未実施（地域枠学生）

(3) 質問項目

- ・学生生活について
- ・地域医療に対する意見
- ・制度を知ったきっかけ
- ・将来の希望（診療科、専門医等）

2 面談により把握した学生の傾向や意見

- 地域医療に従事することに対して疑問を持つ学生はいなかったものの、具体的なイメージや自分の地域医療に対する意識は、高学年ほど高い傾向にあった。
- 将来のキャリアパスについて、4年生以下は、未だ具体的に見えていない学生が多かった。
- 制度を知ったきっかけについて、地域枠は、高校や予備校の先生から教えてもらう割合が高く、一般枠は入学時のパンフレットで知る割合が高い。中には、本制度を受けている先輩や友人から教えてもらった学生もいた。
- 一般枠の学生の方が、やや途中離脱等のリスクが低いようである。地域枠は県内高校の出身者であり、熊本市周辺で実家暮らしをしている学生も多く、奨学金に一切手を付けていない学生もいた。
- 制度の周知が不足しているという意見が出ていた。

3 面談をふまえた対応策

- 年に2回程度の面談を継続的に実施
- 更なる制度周知を図る（大学内でのポスター掲示等）
- 地域医療ゼミや夏期実習を通じた地域医療に対する意識付けを継続的に行う。

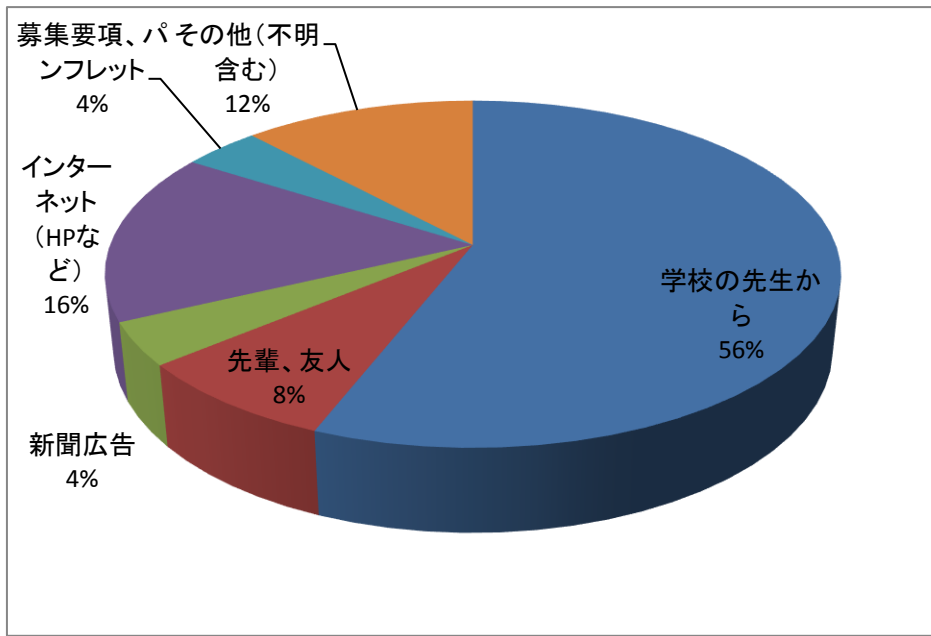
4 6年生の初期臨床研修のマッチング状況

いずれの学生も県内の基幹型臨床研修病院にマッチングしている。

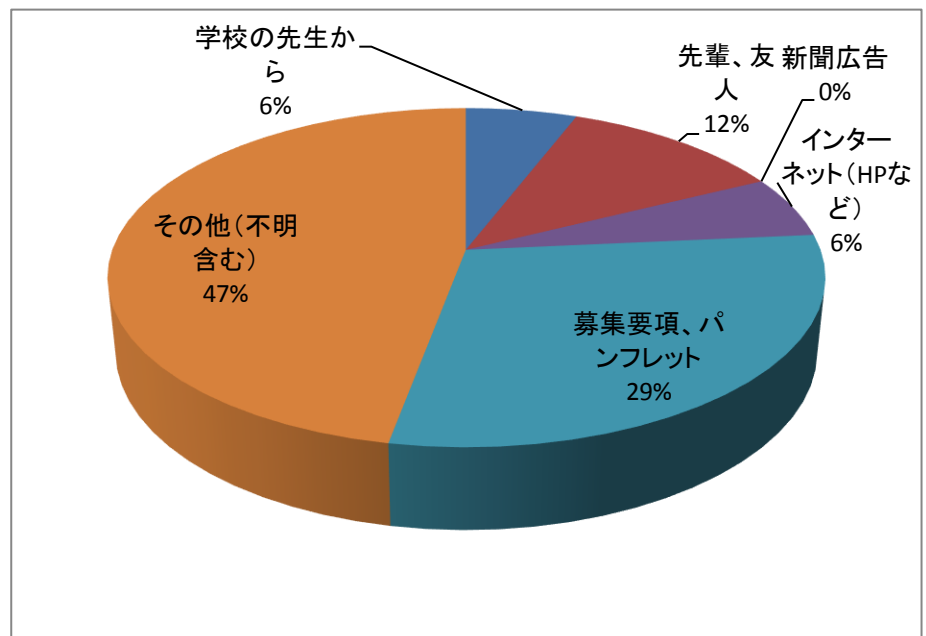
<面談結果のとりまとめ>

1 制度を知ったきっかけ

(地域枠)

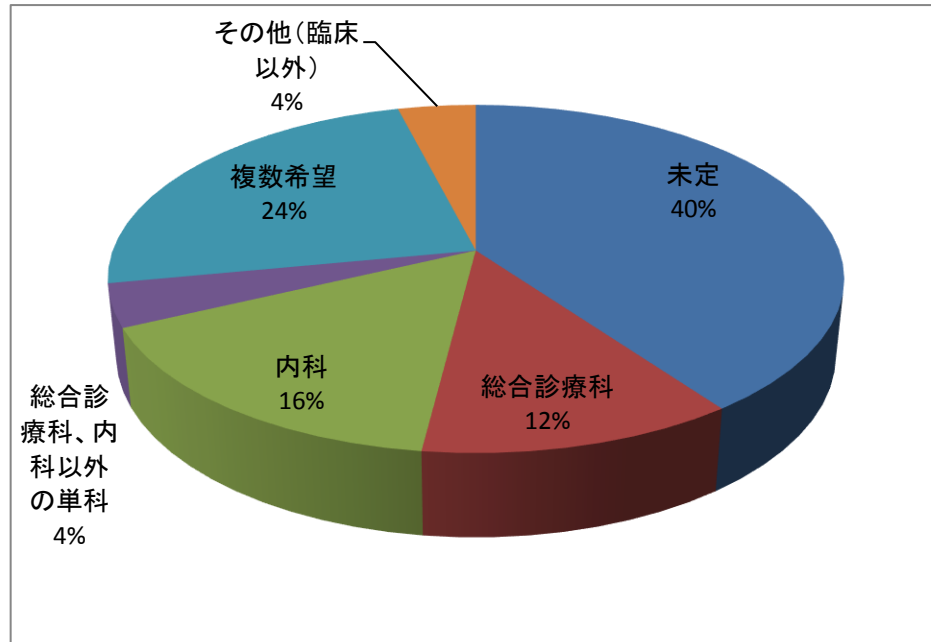


(一般枠)

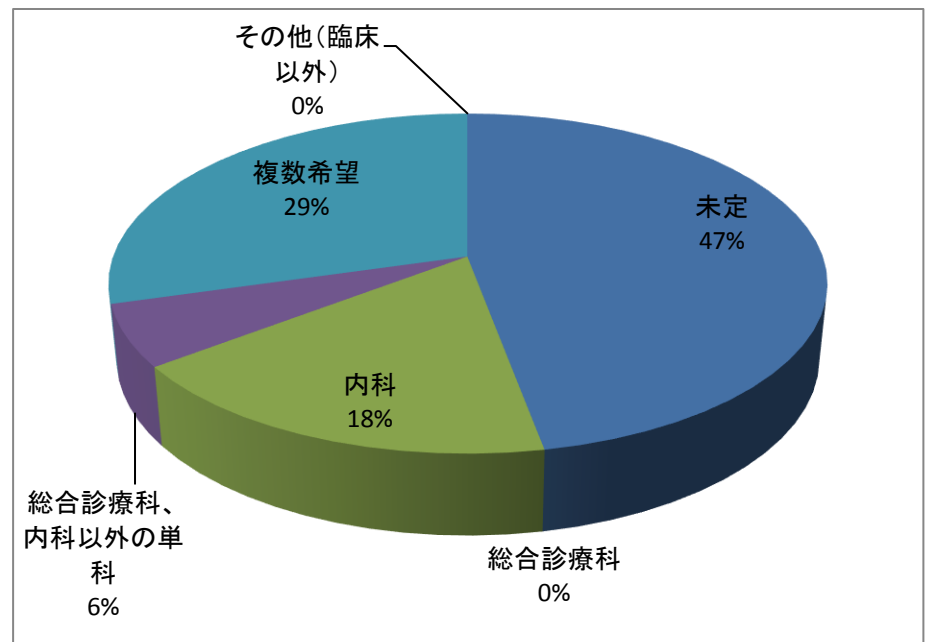


2 将来の希望診療科

(地域枠)

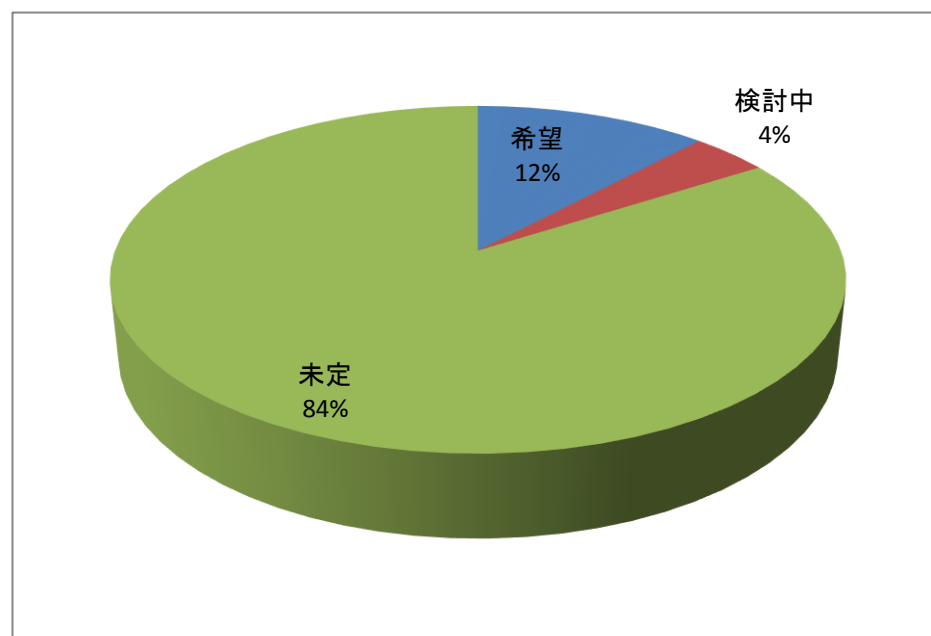


(一般枠)

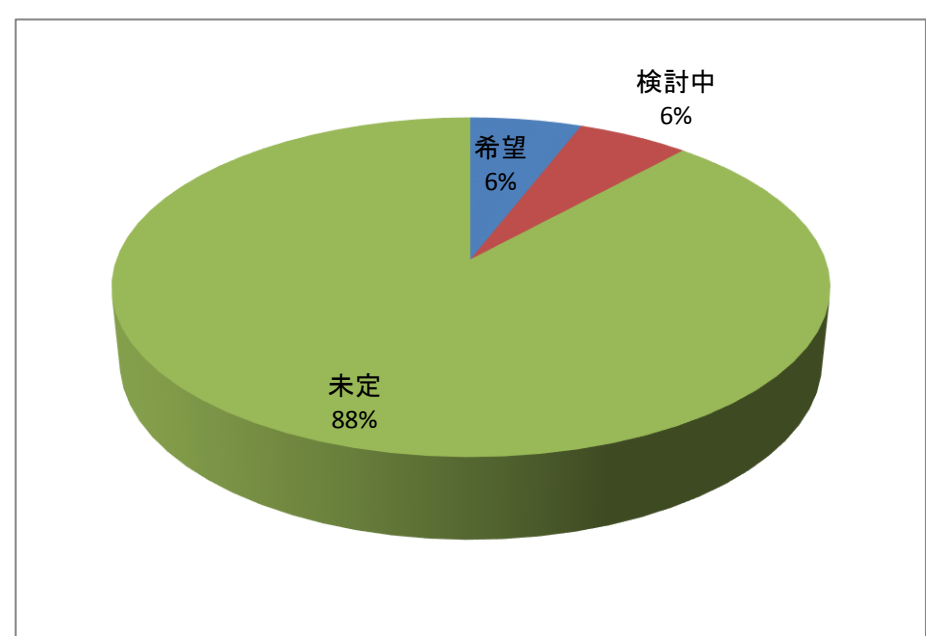


3 医局への入局

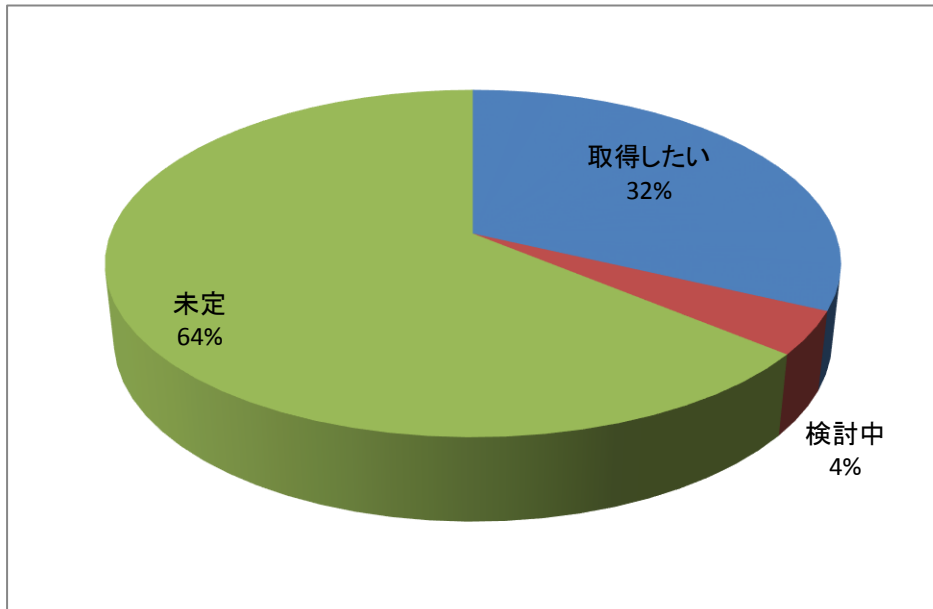
(地域枠)



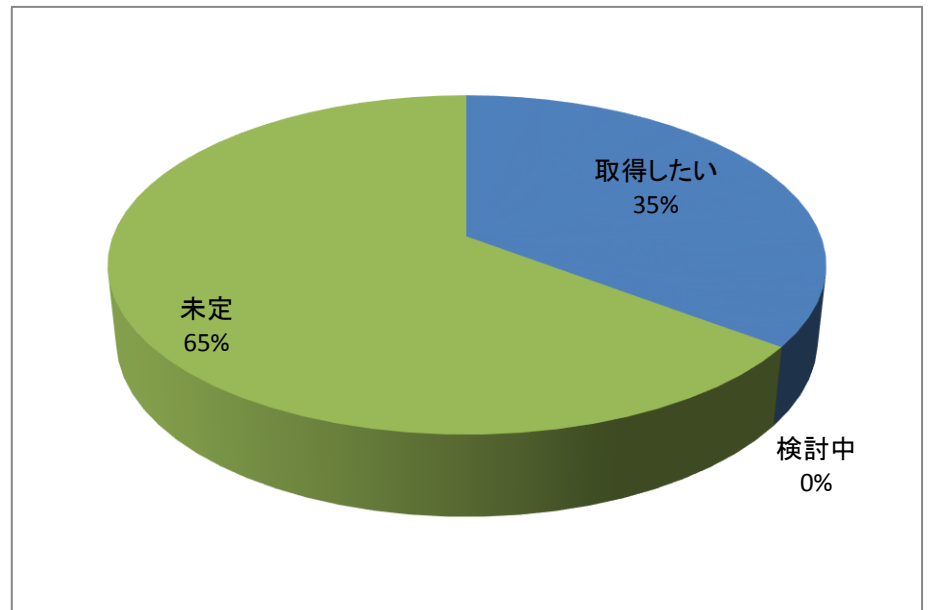
(一般枠)



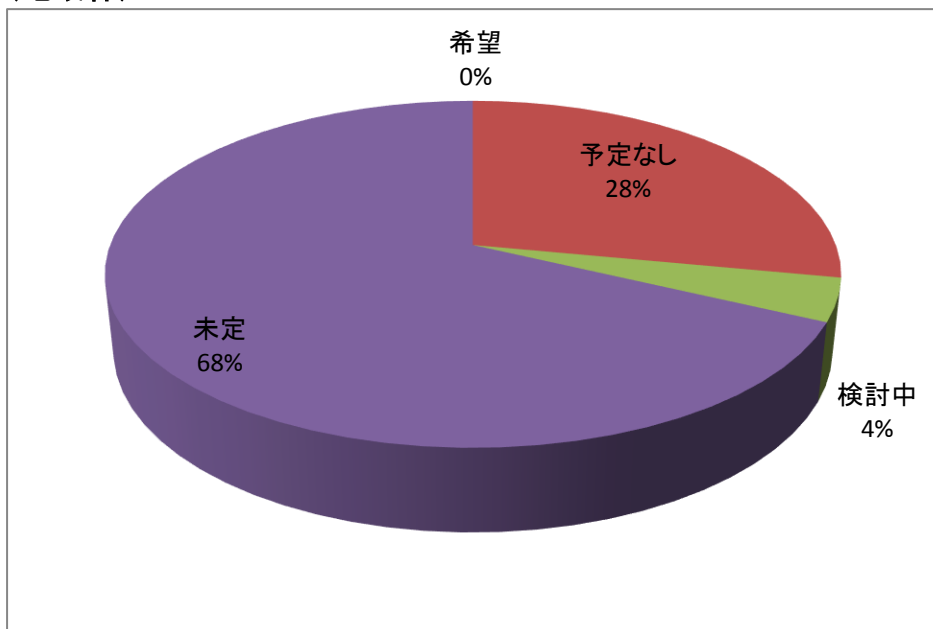
4 専門医取得の希望の有無
(地域枠)



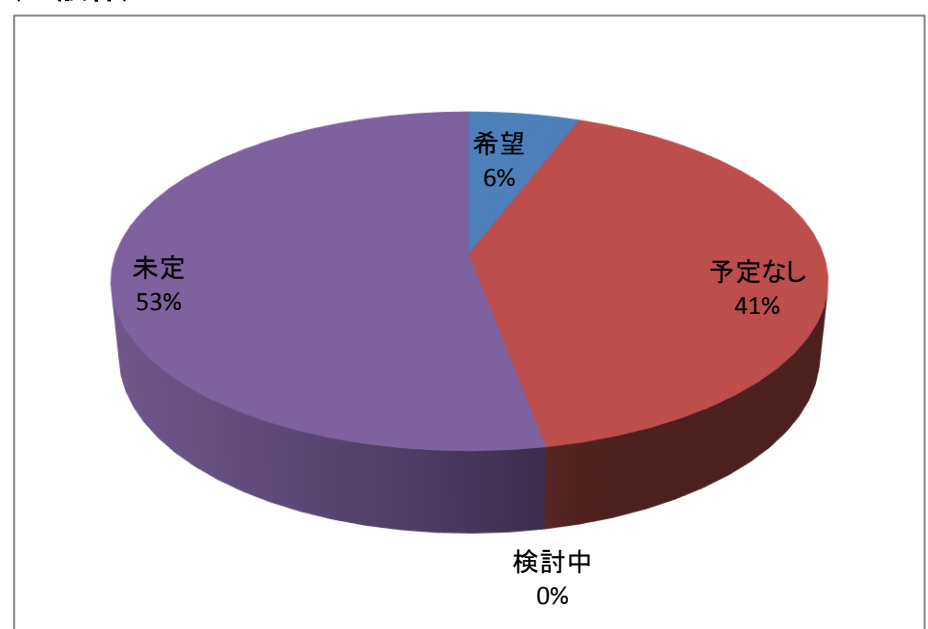
(一般枠)



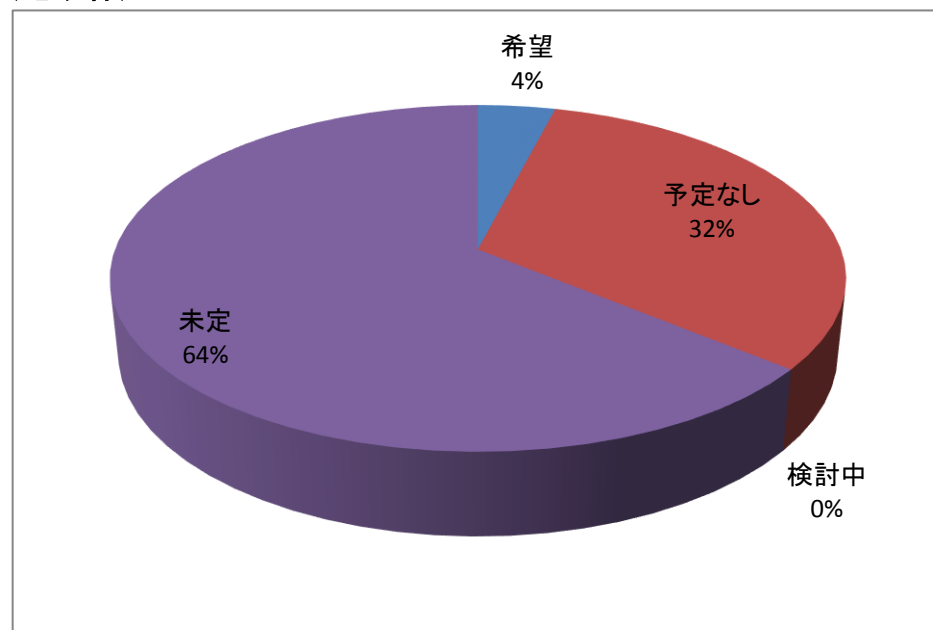
5 県外での後期研修の希望
(地域枠)



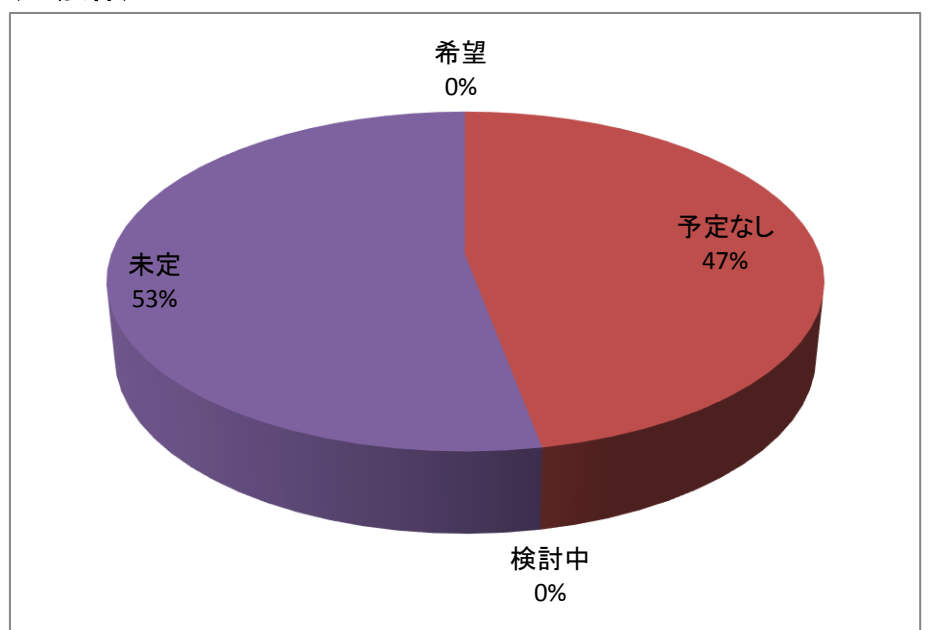
(一般枠)



6 大学院進学希望
(地域枠)



(一般枠)



7 地域医療への意識 等

(地域枠)

将来的には天草に行けたらと思っている。

地域で働くことを楽しみに思っている。

大学の授業や夏期合宿で地域の医師から話を聞き、関心を持っている。

地域で医師として働くことで、地域の良いところを吸収したい。

元々地域の町医者みたいなことを夢見ていたので、是非地域で働きたい。

働く場所がある程度決まるのもいいかなと思う。

離島での勤務は厳しいと思うが、基本的にやってみたいと思っている。

あまりイメージできないが、診療所での勤務は厳しいと感じている。

患者に近い距離での仕事をしたいが、人員不足の場所にいきなり行くのは不安。

地域医療に従事するイメージはある。

興味はあり、父親も検査技師であるため、必要性は理解している。

県内で働くことは問題ないが、診療所だと厳しいかもしれない。

地元が人吉なので、ある程度イメージはある。

天草出身なので、地域で勤務することは問題ない。

将来は地元に戻って働きたい。

1人1人の患者に係る、全体がわかるようになりたい。

どんな病気でも診ることができる医師になりたい。

(一般枠)

ゼミや合宿でイメージがついた。

合宿などで意識が特に強くなった。

入学前から天草で働きたいと思っていた。

幼いころからのイメージはあるため、しっかりと働きたい。

熊本で是非働きたい。

あまりイメージできないが、人の為になることをやりたい。

どちらかという田舎で働きたい。

熊本県内で働くつもりだったので問題ない。

是非地域医療をやりたい。

熊本に残って、医療の知識をあまり持たない人との橋渡しの存在になりたい。

できれば天草で働きたい。地域住民から頼られる存在になりたい。

よく話を聞き、相手を知ることができるようになりたい。